

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	豊橋あゆみ学園		
○保護者評価実施期間	7年 10月 28日		7年 11月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	7年 11月 17日		7年 12月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	8年 1月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の研修を受講する機会、法人内等で研修を開催する機会を確保している。 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、支援に関わる職員が共通理解の下で検討が行われている。	外部研修への参加や内部研修の取り組み。 作成にあたってはリハビリ職員も含めた検討会を実施している。	職員全員が偏りなく参加できるような研修計画を立てる。 福祉協会へ入会し研修機会の拡大を図る。 パート職員も含めた全職員が共通理解できるような周知方法を考える。
2	他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等との連携を図り、地域全体の質の向上に対する取り組みを行っている。	自立支援協議会や子ども支援専門部会、市が主催する会議等に参加している。	児童発達支援センターとして、地域における中核的な役割を果たす取り組み（ペアレントトレーニング、研修会の開催、スーパーバイズ・コンサルテーション）。
3	保育所や認定こども園等との交流を実施している。 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	年6回、隣接する保育所と交流保育を行い、相互に訪問を実施している。 親子通園のため、その都度保護者との情報のやり取りを行っている。	地域交流する機会を作っていきたい。 パート職員も含めた全職員が共通理解できるような周知方法を考える。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	適切なスペースが確保できていない。 生活空間、清潔で心地よく構造化された環境になっていない。	物品が多い。 視覚支援があまり行えていない。	片付け及び整理整頓、不要な物品の廃棄を行っていく。 園全体で視覚支援の必要性及び導入を考える。
2	定員、子どもの状態、実施している事業に対して適切な職員数が確保できていない。 支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有できていない。	配置基準は満たしているが、児童発達支援センターとしての業務が増えている。 会議、朝礼、終礼の全職員が参加できない。	募集を行っていく。 パート職員への周知方法を考える。
3	個人情報の取り扱いが十分留意できていない。 活動プログラムが固定化されないよう工夫できていない。	個人情報取り扱いについて、認識の違いが見られる。 活動プログラムにマンネリ化が見られる。	研修を実施し、個人情報取り扱いの理解を深める。 研修や見学に参加し、療育（保育）の引き出しを増やし、活動プログラムに取り入れていく。待たせ過ぎない活動プログラムを検討していく。